

バセドウ病のアイソトープ (放射性ヨード)治療について

はじめに

アイソトープ治療は、副作用や合併症がない安全な治療法です。アメリカでは、1942年から小児、妊婦、授乳婦を除く多くの患者さんがこの治療を受けています。伊藤病院では1955年より行っています。アイソトープ治療は特別な設備を必要とするため、行える施設は限られております。

治療の特徴

甲状腺には、ヨードを取り込むという性質があります。この性質を利用して放射性ヨードカプセルを飲み、増えすぎた甲状腺の細胞の数を減らし、甲状腺ホルモンの分泌量が正常になるようにします。体の外から放射線をあてるわけではありません。

治療の対象となる方

- ☆ 薬の副作用のため薬の治療が継続できない方
- ☆ 薬の効果が十分に得られない方
- ☆ 薬の治療が長期となり、治療の変更を希望される方
- ☆ 毎日の服薬や定期的な通院が時間的 経済的にも負担になる方
- ☆ 手術後の再燃（再発）の方（原則としてバセドウ病の再手術は行いません）

治療の利点

- ☆ ほとんどの場合、外来連続2日間通院で治療が可能です。
- ☆ カプセルを服用するだけですみ、傷や痛みの心配がありません。
- ☆ 心臓病 喘息 糖尿病、精神的疾患等の合併症があっても治療は可能です。
- ☆ 甲状腺のみを対象とする治療です。他の臓器への影響は心配ありません。
- ☆ 身体に負担の無い、安心 安全な治療法です。

☆ アイソトープ治療後に眼の症状の悪化が1%程度おこるとの報告があります。治療前後に眼科的検査を受けておくと安心です。



放射性ヨードカプセル

1. 無味無臭
2. 吸収が早い
3. 胃に負担がない
4. 風邪薬カプセルと同じ大きさ

外来治療スケジュール

2日間の連続通院をして頂きます。1日目に「検査用カプセル」を服用して、24時間後（2日目）に甲状腺の大きさや働きを測定します。その結果で治療量が決まり、「治療用カプセル」を服用します。治療日程を決めた際に「予約票」「注意事項」をお渡しし、詳しくご説明します。

日	程		治療 7日前				治療 前日	治療日		治療 4日目		2~4週
通院日	●						●	●				●
抗甲状腺薬中止			←									
ヨード制限食			←									
注意事項 A								←		→		
注意事項 B												→
日常生活			★ 抗甲状腺薬を中止しますので甲状腺機能亢進状態になります。安静を心がけてください。									
治療内容		治療日程を決める					診察	検査用カプセル服用	検査	治療用カプセル服用		血液検査 通常診察
入院の必要な方							入院					退院

入院が必要な場合は

- 1) 治療に使う「放射性ヨード」の量が外来治療の許容量を超える、あるいはその可能性が高い方。
 - 2) 心臓疾患などの合併症がある方、高齢の方、自宅での安静がとれない方、薬を中止したことなどでおきる甲状腺機能亢進状態が体の負担になる方。
- ☆ 入院期間は、検査用カプセル服用日から1週間です。

注意事項

ご家族を含めた周囲の方々への放射線被ばく量が問題なくなるまで、治療用カプセル服用から A および B の注意事項をお守りいただきます。

A：ご家庭での注意として4日間お守りください（6番目は1週間お守りください）。

- 1) 必要以上に出歩かない。
- 2) 一人で寝る（むりな場合は、隣の人との距離をおく）。
- 3) 入浴は最後にする。
- 4) トイレ使用後は、よく水を流す。
- 5) よく手を洗い、清潔を心がける（米とき、調理などもこれで心配ない）。
- 6) キス、性交、長時間の身体の接触はさける。

B：乳児・幼児・学童・妊婦との接し方（治療の量により1~2週間お守り頂きます）

- 1) 必要な世話はよいが、直接触れ合う時間は短くする。
- 2) 15分以上の添い寝や抱っこは避ける。
- 3) 自分の口に含んだものは食べさせない。

治療の量により制限日数が変わります。治療日に詳しく説明致します。

一時的に守れない項目があったとしても、問題はまずありませんのでご安心ください。